



# ゆづりは

## 堺市立図書館だより

第11巻 第2号 (通巻40号)  
 発行日 平成28年9月10日  
 編集・発行 堺市立中央図書館  
 〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1  
 電話 072(244)3811  
 Fax 072(244)3321

### 「『さかい子ども司書』にチャレンジ！」 を開催しました

家庭でご家族の方や、学校で友達や先生に、身近な人に本や読書の楽しさを伝える、子どもの読書リーダー養成のための「さかい子ども司書」講座を初めて開催しました。参加されたのは、市内の小学校4～6年生の10人。7月22日から8月10日までの間に中央図書館で5回連続講座を実施しましたが、皆さん意欲的に取り組んでくれました。

子どもたちはまず、図書館の仕組みや、本の探し方を学び、本のPOP（本の宣伝文のこと）作りや、おはなし・読み聞かせについての講義を通して、「本の楽しさを伝えるコツ」を学びました。そして、最終日には、実際におはなし・読み聞かせの実演に挑戦し、緊張しながらも全員の前で最後までやりとげました。子どもたちからは「緊張したが、楽しかった」、「司書のことがよく分かった」などの感想を聞くことができました。

この講座を修了した子どもたちは、「さかい子ども司書」に認定されました。今後も図書館でのイベントの際などに活動してもらう予定です。また、図書館以外でも、子どもたちが学んだことを活かし、地域や学校で活躍してくれることを願っています。



書庫の見学



移動図書館の見学



子どもたちが作った本のPOP



おはなし・読み聞かせの実演

### 目次

「『さかい子ども司書』にチャレンジ!」… 1  
 を開催しました

堺市立図書館 100周年を記念する… 2  
 シリーフを寄贈いただきました

シリーズ堺の〇〇 堺の人物… 2  
 川崎巨泉

この本で解決! … 3  
 動物愛護週間をご存じですか?

堺かるた いろはの「き」 … 3

司書のイチ押し!  
 『すいか シナリオ BOOK』 … 4

堺市立図書館電話番号一覧 … 4

# ゆづりは

とは・・・

中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人、河井醉茗氏の歌碑があります。

年ごとに  
 ゆづりゆづりて 譲り葉の  
 ゆづりしあとに また新しく

この歌にちなみ、年月を経て、世代を越えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だよりに「ゆづりは」と名づけました。



## 堺市立図書館 100 周年を記念する レリーフを寄贈いただきました

「知識をつないで 100 周年 読書は世界を拓くする」という文字が刻まれた銅板レリーフが寄贈され、6 月 30 日に除幕式を行いました。

寄贈者の石田英治さんは、ペンネーム梅田我孫子の名で、『〇〇の風』シリーズという小説を執筆されています。退職時に出版された『南の風』から今年で 52 冊を数え、作品はシリーズ第 1 作から図書館へ寄贈していただいています。原稿用紙に直接筆入れされた作品は、他の印刷物とは趣が異なり、手作りの良さが感じられます。

「梅田我孫子」というユニークなペンネームは、石田さんが学生時代、大阪市営地下鉄の「梅田⇄あびこ」間の定期券を見て思いつかれたというもの。これまでも浜寺公園駅を残すために、ドキュメン

タリー映画「浜寺物語」を制作されるなど、地域に貢献されてきた石田さん。今回のレリーフの寄贈は、ご自身の作品が 50 冊を超えたことといつも利用している図書館が 100 周年を迎えたことを記念して、「図書館になにか贈りたい」という思いで、提案していただきました。銅板レリーフは、中央図書館の正面玄関に掲げています。中央図書館にお越しの際は、ぜひご覧ください。



銅板レリーフ  
(題字は、竹山修身市長)



除幕式後の記念撮影  
(左から石井雅彦教育長、石田英治さん、竹山修身市長、松井孝中央図書館長)

シリーズ 堺の〇〇 堺の人物



## 川崎巨泉



川崎巨泉はたくさんの「おもちゃ絵」を残したことで有名ですが、もともとは浮世絵師として活躍した人でした。

巨泉は明治 10 (1877) 年、堺の神明町で生まれました。本名は末吉。実家は印刻店を営んでおり、兄は『住吉・堺名所并ニ豪商案内記』を編集・出版した川崎源太郎です。

幼いころから絵を描くことが好きだった巨泉は明治 22 (1889) 年 (明治 25 年という説もあります)、堺の甲斐町に住んでいた浮世絵師、中井芳瀧 (1841 ~ 1899) に弟子入りしました。芳瀧から浮世絵の技法を習得し、明治 27 (1894) 年にはポチ袋に画を描くことで収入を得るようになりますが、大阪で学ぶことに飽き足らなくなり、明治 29 (1896) 年上京しました。

明治 30 年 (1897) 年帰阪した巨泉は芳瀧宅に寓居し、翌年、芳瀧の長女ハマと結婚しました。当初は新聞や雑誌に掲載される広告や引札などを描き、今でいう商業デザイナーとして活躍しました。堺市立中央図書館では巨泉が描いた引札を所蔵して

います。清酒「春駒」を醸造・販売していた鳥井合名会社や和洋小間物を扱っていた店の引札などです。図書館の HP の地域資料デジタルアーカイブから見るができます。

やがて巨泉は「おもちゃ」に興味を持つようになり、郷土玩具を収集し、収集した郷土玩具を描いた「おもちゃ絵」を作成・販売して生計を立てるようになりました。郷土玩具は巨泉のライフワークであり、趣味でもありました。プライベートでも郷土玩具を愛好する様々な人々との交流を楽しんだ巨泉は昭和 17 (1942) 年に亡くなり、そのお墓は堺の大安寺にあります。



### 参考文献

- 『おもちゃ画譜』村田書店 1979 年
- 『これがおもちゃ絵だ!』大阪府立中之島図書館 2006 年
- 『和のおもちゃ絵・川崎巨泉』森田敏雄／著 社会評論社 2010 年
- 『日本のおもちゃ絵』青幻社 2014 年

**この本で解決！**

～動物愛護週間をご存じですか？～

9月20日から26日の動物愛護週間にちなみ、図書館に問い合わせのあった、動物愛護に関する質問をご紹介します。

Q 動物愛護に関する法律を調べています。堺市に条例はありますか？

堺市の条例は、『堺市例規集2-II』第10編 保健衛生 第4章動物指導P5781～5799-2に「堺市動物の愛護及び管理に関する条例」同規則があります。

「条例第1条 この条例は動物の愛護及び管理に関する法律（昭和48年法律第105号）に基づき…」とありましたので、「動物の愛護及び管理に関する法律」もお調べしました。法律そのものは、『六法全書 平成28年版1』（有斐閣2016年）P2459～2463を見ていただき、関連資料として、『日本の動物政策』（ナカニシヤ出版2016年）、『動物福祉の現在 動物とのより良い関係を築くために』（農林統計出版2015年）を紹介しました。

Q 捨て犬や、ノラネコについて調べています。参考になる本はありますか？

A 『ドリームボックス 殺されてゆくペットたち』（小林照幸／著 毎日新聞社2006年）、『ある犬のおはなし』（kaisei／作・絵 トゥーヴァージンズ2015年）の2冊は、動物の殺処分について書かれた本です。ある日、飼い主から捨てられた犬や猫たちの悲しい物語です。

『野鳥もネコもすくいたい！ 小笠原のノラネコ引っこし大作戦』（高橋うらら／文 学研教育出版2011年）は、小笠原諸島で貴重な野鳥をノラネコから守るための活動を描いた児童書です。ノラネコを退治するのではなく、引っこしさせることで問題を解決しました。



環境省の統計を見ると、平成26年度には、1年間に犬と猫合わせて101,338頭が殺処分されています。コンパニオンアニマル（ペット）を飼う前に、最後まで一緒に暮らせるかを考えるために、『あなたにほめられたくて 犬の十戒』（大石二郎／編 エフジー武蔵2004年）を読んでみてはいかがでしょうか。

**堺かるた - いろはの「き」****「狂歌よみ 頓智で名高い新左衛門」**

新左衛門とは「曾呂利新左衛門」のことで、秀吉に仕えた御伽衆の一人とされています。実在したかどうかは諸説ある人物ですが、堺で刀の鞘師をしていて、その鞘に刀を入れると「ソロリ」とよく合ったのでそろりの異名を得たとされています（『堺鑑』）。逸話も多く伝わっていますが、後世に作られたものも多いようです。人前で秀吉の耳のにおいをかぎ、告げ口をしているようにみせて諸侯から贈り物をもらう話等がよく知られています。



## 参考文献

- ・「堺鑑」 衣笠一閑／著 小谷城郷土館 1977（武村市兵衛 1684 の復刻）
- ・「堺市史 2（本編第2）」堺市役所／編纂 1930
- ・「堺市史 7（別編）」堺市役所／編纂 1930
- ・「曾呂利新左衛門」 安藤英男／著 鈴木出版 1989
- ・「戦国百人一話 2」 青人社 1991
- ・「堺かるたの本」 別所やそじ／編 堺かるた普及委員会 1980
- ・「曾呂利新左衛門史料考」 日下義臣／著 1974

# 司書のイチ押し!

## 「すいか シナリオ BOOK」 木皿泉／山田あかね・著 日本テレビ放送網

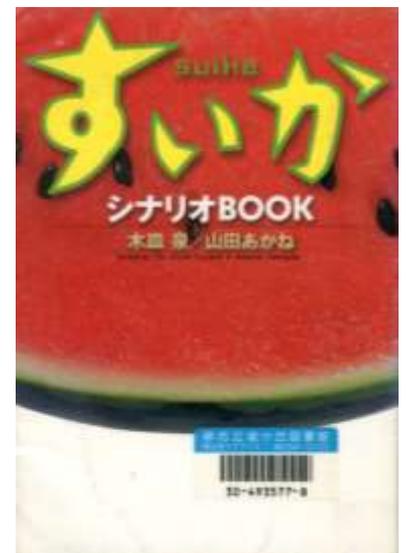
作者の木皿泉さんは神戸市在住の男女二人組の脚本家で、この『すいか』のドラマで、すぐれた脚本家に贈られる向田邦子賞を受賞されました。その後、『昨夜のカレー、明日のパン』で小説家としてデビュー。最近では『木皿食堂』など、エッセイストとしてもご活躍中です。

今回ご紹介するシナリオBOOKは、形式がシナリオということもあり、始めはちょっと読みづらいかもしれませんが、いつのまにか小説と同じ感覚で読み進んでしまう不思議な本です。

主人公の早川基子（34歳）は、「私は、自分の20年先まで見えるンですよ。あんまり、幸せそうじゃない自分が、見えるンです。」と嘆く平凡な信用金庫のOL。ある日、「自分たちは大トロを食べたことがない」と愚痴を言い合う気心の知れた同僚でもあり友人の馬場チャンが、3億円を横領し基子の前から突然姿を消します。その事件がきっかけで、一緒に住んでいた母親への不満が爆発し、基子は家出。ひよんなことから賄（まかない）付き下宿“ハピネス三茶”で、大家の大学生の女の子と下宿人の大学教授、売れない漫画家とともに新しい生活を始めることとなります。再び馬場チャンとは会えるのでしょうか。そして、基子の未来は。

木皿作品の特徴は、日常生活を慈しみ、やさしく描く人間関係にあります。誰もが日常生活で感じる些細な不満や不安をユーモアやウィットを込めて表現した登場人物のセリフは、とても共感を覚えます。そして、「私もこんな話し相手に出会いたい」と思える会話シーンがたくさんあります。著者の木皿泉さんの「人生はまじめにやっても、基子のように煮つまることもある。そんな時、ちょっと視点を変えれば楽になることを感じてもらえれば」というこの話に込めた思いが読み手に伝わってくるのです。

このシナリオBOOK（単行本）は、9年後に主人公のその後を描いた書き下ろし“オマケ”を追加した文庫版が出版されました。残念ながら、単行本は現在出版されていません。文庫化されたことは大変うれしいですが、単行本には主人公や登場人物のその後を想像する余韻を楽しむ良さがあります。想像する余韻を残したこの作品は、より多くの方に楽しんでいただきたいお薦めの1冊です。（M・M）



### 堺市立図書館電話番号一覧

音声応答サービス	280-0415	東図書館	235-1345	北図書館	258-6850
中央図書館	244-3811	初芝分館	286-0071	美原図書館	369-1166
くすのき号	244-3811	西図書館	271-2032	人権ふれあいセンター	船松人権歴史館
堺市駅前分館	222-0140	南図書館	294-0123	人権資料・図書室	245-2534
中図書館	270-8140	梅分館	296-0025	青少年センター図書室	228-6331
東百舌鳥分館	234-9600	美木多分館	296-2111		

ホームページ URL <http://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/library/>